

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072900337
法人名	有限会社 大原ウェルフェア
事業所名	グループホーム 大原苑
所在地	福岡県小郡市大板井391-36 (電話) 0942-73-1218

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H22年 2月 11日
評価確定日	H22年 3月 31日

【情報提供票より】 (平成22年1月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	18 人
常勤	11人
非常勤	7人
常勤換算	13.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	9,500 円	
敷金	有( ) 円	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (100,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年12月末日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	7 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院・本間病院・松岡歯科医院・西原内科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心部近くの閑静な住宅街の中に保育園と隣接した事業所は、明るい色調の建物が保育園の朱色の屋根とあいまって、周囲の景色を暖かく親しめるものにし、代表者の地域福祉貢献への思いを醸し出している。元気な園児達の声に包まれた利用者の日々の暮らしは穏やかで、その柔らかい表情に安らぎと安心感が伺える。玄関横の白い空間壁面には、利用者と職員が合作した四季折々の切り絵の花が飾られ、来訪者の目を楽しませている。リビングには習字、塗り絵、行事写真等を展示し、一緒に育てた菜園の食材を話題にしての食事は、家庭的で和みがある。利用者一人ひとりの思いを尊重し、地域との交流を図りながら、全職員がケアサービスの質の向上に熱意を持ち、日々取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はないが、よりよい事業所を目指し、自分たちで課題を見出して改善計画を立て、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が意見を出し合い、管理者が集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、事業所の現状や今後の活動計画、外部評価等を報告し、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。地域の情報を得て独居老人のショートステイを受け入れる等、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	玄関に意見箱を設置し、家族等来訪時には声かけして、積極的に意見、不満、要望を聴取するように努めている。洗濯物の誤認渡しについて意見があり、確認を徹底する等、対応している。第三者相談窓口については、書面で示して説明し、また玄関に掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町会・自治会に加入し、地域行事や清掃活動等に参加している。地域住民の来訪があり、フラダンスや楽器演奏のボランティアを受け入れる等、地域との交流に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「地域の一員としてみんなと仲良く暮らし、主体性のあるその人らしい生活支援をいたします」と、地域密着型サービスの視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝やミーティング時に全職員で理念を唱和し、確認している。言葉かけ、態度、記録等、実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会・自治会に加入し、地域行事や清掃活動等に参加している。地域住民の来訪があり、フラダンスや楽器演奏のボランティアを受け入れる等、地域との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が意見を出し合い、管理者が集約している。前回評価での改善課題はないが、よりよい事業所を目指し、自分たちで課題を見出して改善計画を立て、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、事業所の現状や今後の活動計画、外部評価等を報告し、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。地域の情報を得て独居老人のショートステイを受け入れる等、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に行政に出向き、運営に関する報告、連絡、相談をしている。また、行政主催の研修でアシスタントを務め、研修を受講して意見を交わす等、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について全職員と家族は共に内部研修で学ぶ機会を持ち、理解を深めるように努めている。また、職員は会議等で伝達研修を行い、必要時には制度を活用支援できるよう周知を図っている。研修資料・報告書等がある。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りを発行し、手紙や写真と共に送付している。家族来訪時には暮らしぶりや健康状態等を報告している。金銭管理については、月1回、家族等へ出納簿を明示し、領収書の原本を手渡している。家族等の署名がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族等来訪時には声かけして、積極的に意見、不満、要望を聴取するように努めている。洗濯物の誤認渡しについて意見があり、確認を徹底する等、対応している。第三者相談窓口については、玄関に掲示し、書面で説明をしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は異動や離職を最小限に抑えるよう、勤務希望や個人面接を行う等、工夫や努力をしている。やむを得ない異動等には、利用者のダメージを防ぐ為、引継ぎ期間を十分設ける等、配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等では排除していない。本人の熱意や適正を重視している。職員が能力を発揮し、生き生きと勤務できるよう職場環境作りに配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>一部職員が外部研修に参加し、ミーティング時に伝達している。管理者は職員に対し、利用者や家族、職員相互間の人権尊重の大切さを話し、啓発活動に取り組んでいる。テキスト・パンフレット等がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員が日常的に学ぶことを推進し、職員は内部・外部研修を受ける機会がある。研修後は伝達研修し、研修内容を全職員で共有している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者とネットワークを構築し、管理者と職員は電話連絡や話し合いの場をもち、相互訪問して交流を図る等、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、事業所の見学や体験入所を行い、自宅や病院等を訪問している。やむを得ず即利用の場合は、職員は声かけを多くし、家族の協力を得る等して、馴染みの関係を築くよう家族と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理を共に行い、職員が知らない生活の技を利用者から教えてもらったり、畑作り・洗濯物たたみ等、利用者の得意分野で力を発揮してもらう場面がある。また、職員が利用者からいたわってもらったり、励ましてもらう場面がある等、支えあう関係を築いている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で、利用者に声かけし、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族や関係者から生活歴等の情報を得るようにし、本人の表情や言動から思いを推し測る等して、本人本位に検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、利用者・家族の思いや意向及び全職員の気づきや医師の意見を取り入れ、利用者本位の介護計画を作成している。家族へ説明し、了承の署名がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて介護計画を見直し、現状に即した計画を作成し、家族等へ説明している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した際は、見舞いながら本人・家族・医療機関と連携を図り、早期退院へ向けて取り組んでいる。通院や送迎等の必要な支援は、家族等の状況に応じて柔軟に支援している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前の受診経過及び現在の受診希望を聴取し、今までのかかりつけ医や希望する医療機関での受診を支援している。家族等と通院介助の方法、情報伝達方法について話し合い、合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について事業所の方針があり、折に触れて家族等へ説明している。利用者の意向を大切にし、経過を見ながら家族等やかかりつけ医と話し合って合意を図り、全員で方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修等で職員の意識向上を図っている。プライバシーの確保について、管理者は日常的に職員へ意識付けを行い、適切な対応に努めている。個人情報の使用については、家族等へ説明し、同意をもらっている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調等に配慮しながら本人の意思を尊重し、散歩や居室でゆっくり過ごす等、その人のペースや希望にそって支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に準備や食事、片付けをしている。さり気なく介助をしながら菜園で取れた野菜を賞味する等、食事が楽しみなものになるよう雰囲気作りに配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望にあわせて柔軟に支援している。入浴を拒否する利用者には、時間や言葉かけを工夫し、入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の個性や特技を把握し、また、利用者の生活歴や趣味等を活かして、食事の準備や畑仕事等の役割、習字や塗り絵、折り紙等の楽しみごとを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や天候等に配慮しながら、散歩、ドライブ、買い物、外食、季節毎の花見や行事を観に行く等、戸外へ出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向等を把握し、センサーに頼らず、見守りや付き添いを行っている。散歩時に、近隣へ見守りや声かけをお願いしている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施し、避難経路の確認、消火や救急救命訓練等をしている。運営推進会議を通し、地域住民へ参加を呼びかけている。非常用飲料水・備品を準備している。	○	地域住民の参加協力を得られるよう働きかけてほしい。また、非常用食料を準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、全利用者分の記録がある。献立は、職員が利用者の嗜好や状態を考慮しながら作成している。	○	水分摂取量についても、全利用者分を記録してほしい。また最低年1回は、栄養士等による専門的アドバイスを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に、利用者と職員合作の季節感が感じられる切り絵や折り紙等を飾っている。職員の声やテレビの音の大きさは適切で、天窓からの採光を採り入れる等している。共用空間にはテーブルやソファを設置し、利用者が思いおもいに過ごせるよう配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、時計、カレンダー、家族写真、暖簾等、家族と話し合い、利用者の馴染みの物を持ち込み、安心して過ごせるよう工夫している。		

※      は、重点項目。